

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・親会社であるマルハニチロの商流・物流を活用し、国内外へ販売している。海外向けは、主な輸出先は香港、中国、韓国であり、令和元年度から販促活動を進めている。
- ・今後の輸出事業の拡大を図るには、大口ニーズに対応した生産量の確保や、需要が拡大する活魚出荷の強化など、輸出先国でのニーズに対応する必要がある。

養殖場



アクア事業所



【課題】

- 生産量確保の為に、採捕不安定な天然種苗への依存度を軽減する必要がある。また、魚病発生リスク軽減対策からワクチン接種も重要で、将来的に安定的な人材確保の難しさと合わせて、ワクチン接種時の効率化も求められている。
- ブリは一般的に春から夏にかけては産卵期で身質があまり良くないイメージがあり、需要が落ちる一因と考えられる。また、韓国においては養殖魚におけるエトキシキン含有量の規制があるため、エトキシキンを含有しない餌飼料を使用する必要がある。
- 中国において日本産ブリの需要は非常にあるものの、品質を維持しながら日本から中国へ大量に輸送する手段を確立できていない。
- 春時期に身質が弱くなるため、輸出先でラウンドからフィーレへ加工する際に身が崩れやすい。香港に生鮮ラウンド・空輸で輸出を行っているが、航空運賃が高騰しており、配送費が割高となっている。

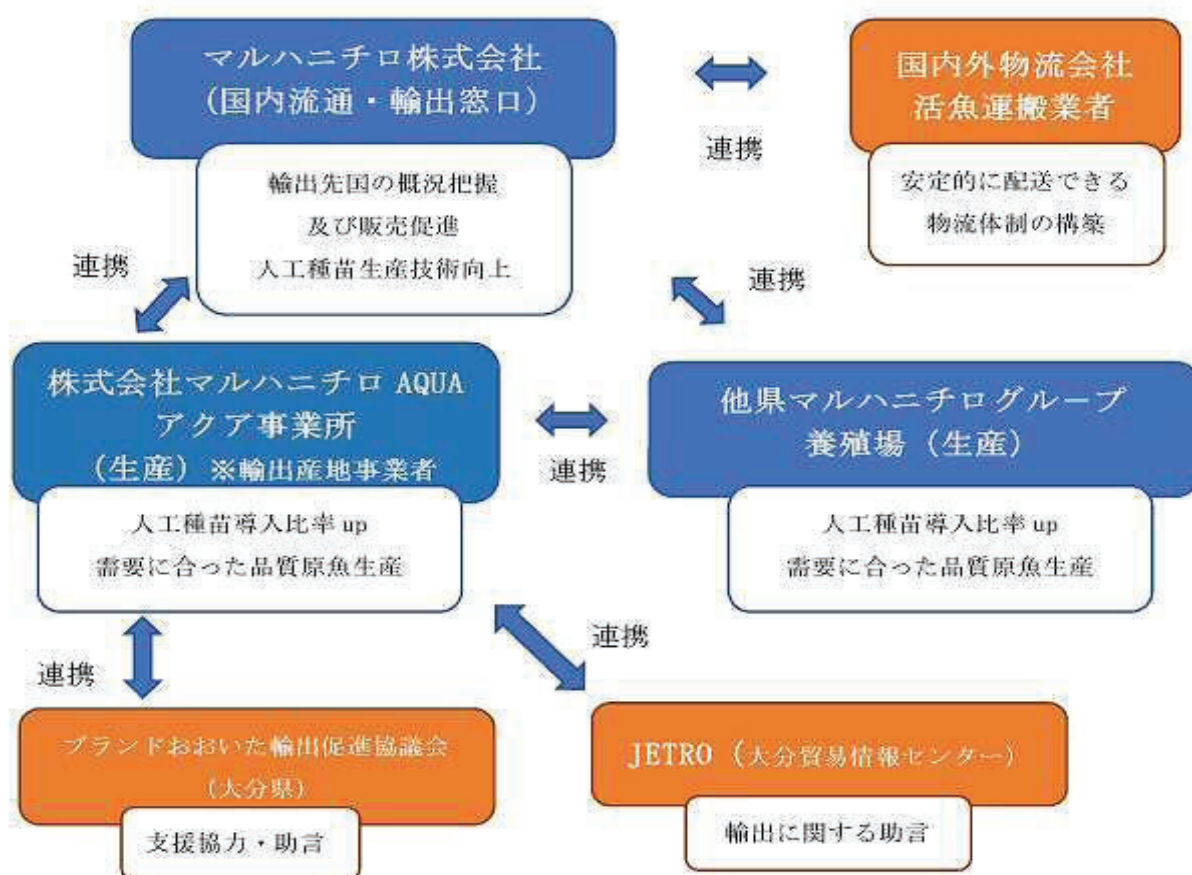
2. 輸出事業計画の取組内容

- マルハニチロと連携を図り、人工種苗導入比率を上げる。ワクチン接種に関しては、ワクチンメーカーと連携しながらワクチン自動接種機等の導入を進め、省力化を進める。
- 春や夏においても、人工孵化や、天然でサイズの小さい原魚を使用することで、産卵の負担を軽減し、品質（身質）を維持した日本産ブリの供給を行う。低エトキシキン及びエトキシキンフリー飼料を使用した飼育方法を確立し、韓国向けの規制をクリアしたブリを生産する。また、韓国国内で流通している原魚との品質の違いについて販売促進してアピールすることにより、新たな需要を獲得する。
- 活魚では水温を考慮しながら活魚運搬業者と取り組み、生鮮品では航空会社との定期航路を運航する等取組を行うことによって、ある程度の輸送量を安定的に配送できる仕組み作りを行う。
- ブリの人工種苗を使用して、春の時期に出荷する原魚における産卵の影響を軽減し身質の維持を図る。航空会社との取組みで、航空運賃が抑えられる新規・既存航路を模索する等して、ある程度の輸送量を安定的に配送できる仕組みを作る。

様式2 輸出事業計画

※申請者名（株）マルハニチロAQUAアクア事業所、品目：ブリ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状 (令和3年度)	目標 (令和6年度)
輸出額 (千円)	117,000千円	221,000千円
輸出量 (t)	180 t	240 t
輸出先国	香港・韓国・中国等	